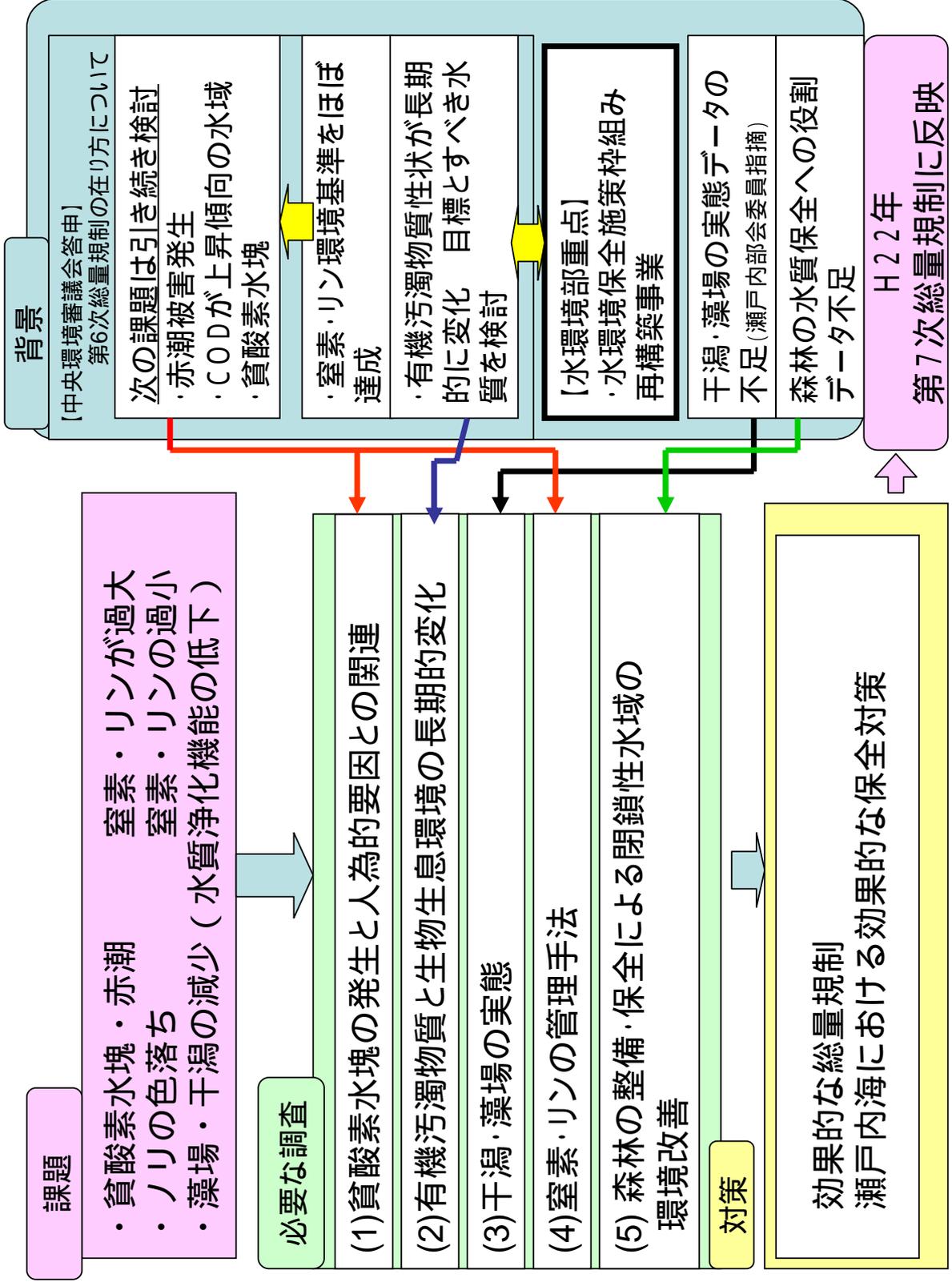


瀬戸内海における新たな環境保全・再生の在り方に関する調査



No	71				No(再掲)							
該当箇所番号	3	-	13	-	-	該当箇所番号 (再掲の場合)	3	-	-	-		
施策名	閉鎖性海域における最適環境修復技術のパッケージ化事業の概要											
担当部局	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室											
施策の概要	<p>(背景) 過剰な栄養塩や有機性汚泥が「負の遺産」として蓄積。赤潮や貧酸素水塊が発生し、生物が生息できない状態が発生。 保全型施策の充実、悪化した環境の修復・回復、多様な生物の生息場の創出が求められている。 代表的な環境修復技術 = 人口干潟、浅場、藻場の造成、底泥の浚渫・覆砂等 海域における物質循環構造を修復するためには、これからの技術の組み合わせが課題。</p> <p>(調査目的) 多様な環境修復技術の開発と最適な組合せ(ベストミックス)を示すこと ベストミックスの方法論の汎用化(環境修復技術のパッケージ化) 尼崎における環境修復技術事業化のための提案</p> <p>(調査期間) H13 - H15(環境省環境技術開発等推進事業による事業期間) その後兵庫県に調査が引き継がれた。</p>											
	瀬戸内海関係地域での実施事例	<p>(実証海域) 兵庫県尼崎港内</p> <p>(実証内容) 以下の技術による水質改善効果をモニタリングで把握 浮体式藻場による海藻類育成と海藻バイオマス利用 エコシステム護岸 人口干潟 磯および石積堤を用いた閉鎖性干潟 流況制御</p> <p>(結果) ・本プロジェクトで選択した環境修復技術は互いに多くの補完機能を有しており、複数の技術が絡み合うことで機能の増幅が図られることが判明。 ・特に浅場造成による透明度改善効果、貧酸素化抑制効果とも大きく、懸濁物食性二枚貝のろ過と開始の光合成による酸素供給は互いに大きな補完効果を生み出す。</p> <p>(その他) ・実証試験終了後、これらの施設は環境教育の場として活用されている。</p>										
進捗状況を示すデータ												
項目1							単位			対象地域		
年度												
項目2							単位			対象地域		
年度												
項目3							単位			対象地域		
年度												

尼崎港の現状と実験フィールド位置



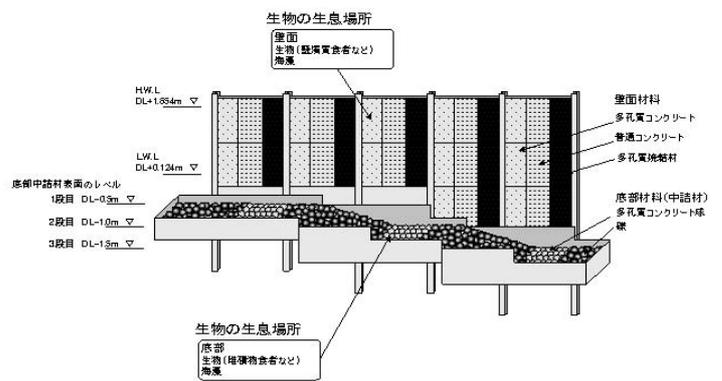
石積堤を用いた閉鎖性干潟実験施設



実験干潟(人工干潟)



藻場(筏)



生物プラント概念図

出展:国際エメックスセンターHP

No	73	No(再掲)	
該当箇所番号	3 - 13 -	該当箇所番号 (再掲の場合)	3 - -

施策名	化学物質環境実態調査(暴露量調査)の概要
-----	----------------------

担当部局	環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課
------	----------------------

施策の概要	<p>化学物質環境実態調査は、調査結果が環境中の化学物質対策に有効活用されるよう、各担当部署からの要望物質を中心に選定する化学物質環境実態調査物質選定検討会によるニーズに応じた選定方法が平成14年度調査より採用され、平成16年度までは「初期環境調査」「暴露量調査」及び「モニタリング調査」の3つの調査体系からなる目的別の調査を実施してきた。</p> <p>この中で、暴露量調査は、化学物質審査規制法第2種監視化学物質や化学物質排出把握管理促進法第1種指定化学物質等について、その環境リスク初期評価を実施するために必要なヒト及び生物の化学物質の暴露量把握に用いる環境残留状況の把握を行うことを目的として実施される調査である。</p> <p>なお、平成17年度からは、化学物質対策関連部署と連携を密にし、施策の策定に資する調査となるように、調査体系を「初期環境調査」「詳細環境調査」「暴露量調査」「モニタリング調査」及び「ヒト生体試料調査」の5つの調査体系で実施するとともに、化学物質環境実態調査の支援事業として、「暴露量推計支援事業」「環境試料保存事業」及び「分析法開発事業」についても精力的に取り組んでいる。</p>
-------	--

瀬戸内海関係地域での実施事例	<p>平成16年度は、N,N'-ジメチルドデシルアミン=N=オキシド(全国41地点。瀬戸内海では大和川河口、大阪港、姫路沖、神戸港、紀ノ川河口、水島沖、呉港、徳山湾、吉野川河口、高松港で実施。)及びヘキサン(全国20地点。瀬戸内海では大阪港、姫路沖、神戸港、水島沖、呉港、徳山湾、高松港で実施。)について、水質の調査を実施した。</p>
----------------	--

進捗状況を示すデータ													
項目1											単位	対象地域	
年度													
項目2											単位	対象地域	
年度													
項目3											単位	対象地域	
年度													

No	74	No(再掲)	
該当箇所番号	3 - 13 -	該当箇所番号 (再掲の場合)	3 - -

施策名	干潟及び藻場の造成・再生に関する技術開発の支援制度の概要
-----	------------------------------

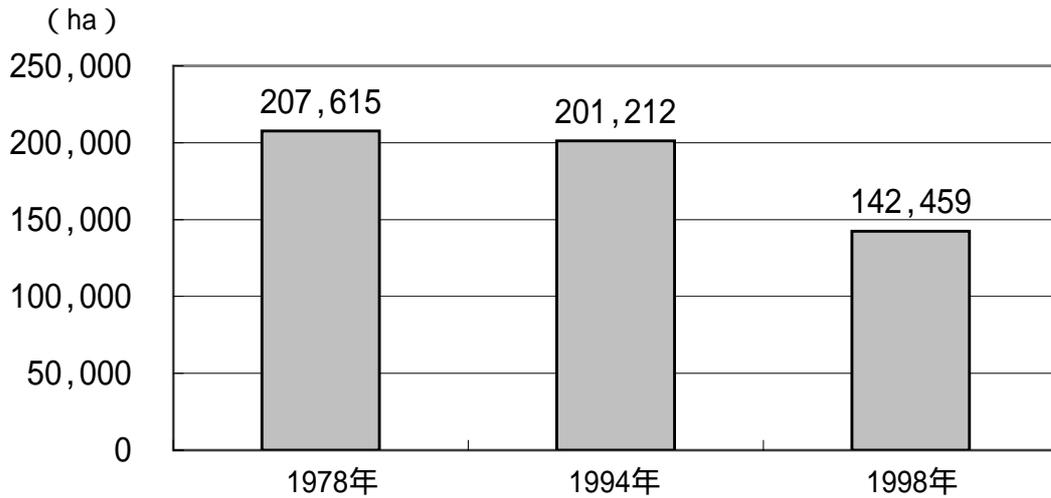
担当部局	農林水産省水産庁漁港漁場整備部整備課
------	--------------------

<p>施策の概要</p>	<p>1) 藻場・干潟は、水生生物の産卵・幼稚子の育成・餌の確保の場として水産資源の維持・増大に大きく寄与するとともに、海水中の有機物の分解や栄養塩の取り込みによる水質・底質浄化機能が優れており、良好な沿岸域環境を維持し安定した水産資源の供給を確保する上で重要な役割を果たしている。</p> <p>2) しかし、近年では、「磯焼け」と呼ばれる藻場の大規模な消失、干潟における生産力低下が全国各地で発生し、我が国の沿岸漁業に大きな影響を及ぼしており、これらの早急な問題解決が強く求められている。</p> <p>3) 磯焼けや干潟の生産力低下について、その原因の推定と対策の提案が幾つかなされているものの、対策の持続的な効果が明らかになっていないなどの理由により全国に普及するまでには至っていない。</p> <p>4) そこで、これらの対策の持続的な効果の検証に対し支援を行うとともに、その成果をガイドラインとして取りまとめ全国に普及する取り組みを実施しているところ。</p>
--------------	--

<p>瀬戸内海関係地域での実施事例</p>	
-----------------------	--

進捗状況を示すデータ																	
項目1											単位	対象地域					
年度																	
項目2											単位	対象地域					
年度																	
項目3											単位	対象地域					
年度																	

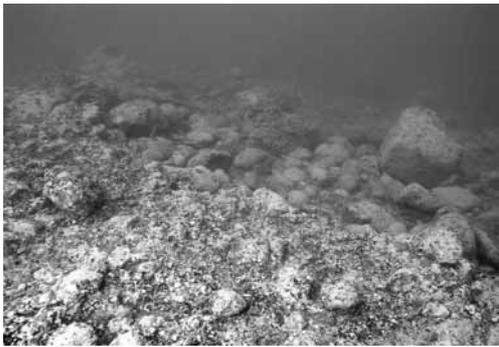
藻場の面積の推移



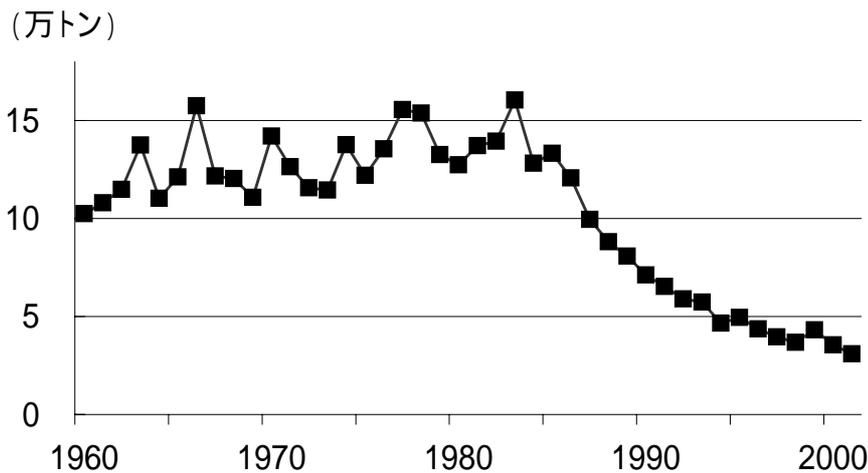
出典) 自然環境保全基礎調査(環境省)による結果

備考) 1978年及び1994年は水深20mまで、1998年は水深10mまで調査

藻場(コンブ群落)の磯焼けの改善例



干潟の主要生産物であるアサリの生産量の推移



出典) 漁業・養殖業生産統計年報(農林水産省)による結果

No	75	No(再掲)	87
該当箇所番号	3 - 13 -	該当箇所番号 (再掲の場合)	3 - 16 -

施策名	瀬戸内海沿岸域総合的管理支援データベースの活用
-----	-------------------------

担当部局	国土交通省国土計画局海洋計画室
------	-----------------

施策の概要	<p>「21世紀の国土のグランドデザイン」(五全総)では、「沿岸域の安全の確保、多面的な利用、良好な環境の形成及び魅力ある自立的な地域の形成を図るため、沿岸域圏を自然の系として適切にとらえ、地方公共団体が主体となり、沿岸域圏の総合的な管理計画を策定し、各種事業、施策、利用等を総合的、計画的に推進する「沿岸域圏管理」に取り組む。そのため、国は、計画策定指針を明らかにし、国の諸事業の活用、民間や非営利組織等の活力の誘導等により地方公共団体を支援する。なお、沿岸域圏が複数の地方公共団体の区域にまたがる場合には、関係地方公共団体が連携し、特に必要がある場合には、国を含めた広域的な連携により、計画の策定、推進を図る。」とされており、平成12年2月に「沿岸域圏総合管理計画策定のための指針」を策定した。</p> <p>また、平成15年にはモデル調査として「モデル瀬戸内海沿岸域総合管理システム」をとりまとめた。</p> <p>瀬戸内海沿岸域データベースは沿岸域の総合管理に資するものとして、瀬戸内海に関しこれまで様々な主体が行ってきた調査、研究、報告について、その成果と概要を捕捉し、必要な情報の検索機能を確立するために平成16年度構築したものである。</p> <p>データベースには、web上で公開(URL: http://www.crrc.or.jp/dcrsis/top.htm)されており、地域総合開発、地域づくり、環境保全・環境創造、観光、交通、産業等のテーマの調査報告等を現在66掲載しているほか、他機関が運営している関係情報サイトや関係団体のホームページへのリンクを載せている。</p>
-------	---

瀬戸内海関係地域での実施事例	
----------------	--

進捗状況を示すデータ																		
項目1											単位	対象地域						
年度																		
項目2											単位	対象地域						
年度																		
項目3											単位	対象地域						
年度																		

No	76				No(再掲)	82						
該当箇所番号	3	-	14	-	-	該当箇所番号 (再掲の場合)	3	-	15	-	-	
施策名	瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の概要											
担当部局	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室											
施策の概要	瀬戸内海の環境保全を推進する上で必要な、地域住民等に対する普及啓発事業を実施している。											
瀬戸内海関係地域での実施事例	<p>[平成17年度の実施内容]</p> <p>(1) 瀬戸内海環境保全セミナーの実施 環境保全活動を推進するため、環境保全意識の高揚及び人材育成、情報発信等を目的として瀬戸内海環境保全セミナーを実施した。 中国ブロック 参加人数128名 近畿ブロック (3月29日開催予定)</p> <p>(2) 瀬戸内海に関する環境保全資料等による普及啓発 瀬戸内海に関する小冊子及び瀬戸内海環境保全月間ポスター等を作製・配布し地域住民等の環境保全に関する意識の向上を図る。(具体的な行事例は裏面参照)</p> <p style="text-align: center;">平成17年度瀬戸内海環境保全月間ポスター 入選作品</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>最優秀賞(環境大臣表彰)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>子供部門 優秀賞(協会会長表彰)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>一般部門 優秀賞(協会会長表彰)</p> </div> </div>											
進捗状況を示すデータ												
項目1							単位				対象地域	
年度												
項目2							単位				対象地域	
年度												
項目3							単位				対象地域	
年度												